

## 枯松神社

この地域は明治時代（1868-1912）に潜伏キリシタン時代の聖地となりました。しかし、長年の間、ここには小さな石造りの祠しかありませんでした。最初の正式な木造の社殿は日清戦争中の 1938 年に建てられました。戦地に送られる男たちは、この神社で祈願すれば負傷を免れると信じており、無事に帰還したものは感謝の気持ちを込めて酒器を奉納しました。建立当初と全く同じつくりの現在の社殿は 2003 年に建造されたものです。

神社に向かう道の途中、二つの巨大な平たい岩のそばを通ります。低い方の岩の下には空間があります。伝承によると、この地域の潜伏キリシタンは、見つからないように見張り役を立てて、この岩陰でオラシヨを覚え、練習していました。

枯松神社は、フランシスコ会のスペイン人修道士サン・ジワンの墓所に建てられました。彼は寒さと飢えで命を失い、地域の人々によってこの場所に埋葬されました。サン・ジワンは、バスチャンという日本の教会暦を編纂し、キリスト教迫害の終焉を予言した日本人伝道者の師として有名です。

現在の社殿の内部には二つの祠があります。中央にある大きい方は 1933 年につくられたもので、その左にある小さい方は明治時代（1868-1912）のものです。

この場所はもともとジワン枯松と呼ばれていました。枯松は文字通り「枯れた松」を意味しますが、かつてここに生えていた松は全て樟脳の木に植え替えられています。神社周辺の平地一帯はかつてキリシタン墓地でした。現在道の脇に積まれている平たい石は、もとは墓石だったものかもしれません。

丘の下には 1990 年につくられた小さな墓地があります。この墓地には三つの宗教の要素を組み合わせた家族墓があります。片側には金色の十字架と西洋風の洗礼名が刻まれたキリスト教式の墓石、中央には戒名が記された縦長の仏式の墓石、そして離れたところに小さな球根の形をした道教式の碑があります。

1999 年から、枯松神社は毎年 11 月に枯松神社祭を開催しています。この祭事では、地元のカトリック信者、かくれキリシタン、仏教徒が一同に会し、宗派を越えてともに先祖の冥福を祈ります。（この行事は一般公開されていません。）